

請 願 文 書 表
(令和7年第3回定例会)

請 願 第 1 2 号	令和7年8月27日受理
付 託 委 員 会	福祉常任委員会
件 名	八千代医療センターへの支援強化を求める請願
紹 介 議 員	立 川 清 英 議員 塚 本 路 明 議員
請 願 要 旨	
東京女子医科大学附属八千代医療センター（以下「医療センター」と云う）は病院誘致を熱望した8万人余の市民の署名、八千代市議会の強い要請により開設。今年で19年目となります。 誘致の際に大学側に八千代市が求めた条件は、24時間365日対応の救急医療と小児・周産期医療を充実させることでした。 これを受けて病院側は、千葉県より総合周産期医療センター及び救命救急センターの指定を受け、施設やスタッフを充実させて参りました。 なかでも小児・周産期医療は、千葉県こども病院とともに県内トップクラスの設備を誇り、万全な医療体制で臨んでおります。 また救急搬送用ヘリポート、脳卒中集中治療室（SCU）、がん関連施設、さらに小児救急医療の充実を図るべく、千葉県で最初の小児救命救急センターの設置等、高度最新医療施設を整え地域に貢献しております。 厚労省の昨年度調査では、全国の約7割の病院が赤字経営に見舞われており、中でも自治体病院では9割近くが赤字経営と言う状況で、地域医療は崩壊寸前だと叫ばれている現状です。 『国立大学病院が潰れる？7割が赤字』（2025年7月14日、報道1930）国立大学病院会議会長・千葉大学病院長は「44の国立大学病院で285億円の赤字、国の支援がなかったら間違いなく潰れる」と述べております。 その要因として①高度医療のコスト増・・・高度な医療を地域に提供してきた大学病院ならではの問題、最先端の医療機器の使用による手術や専門性の高い手術や臓器移植など、高度な医療を提供すればするほど赤字。 ②人件費の上昇・・・光熱費の上昇などに加え働き方改革による影響による医師の人件費の増加等、を挙げていました。 また、「国が定めた診療報酬では、物価や賃金等の上昇分が加算されないため、病院側の負担が増大して赤字に転落するか、既存の赤字に新たな赤字が上	

請 願 文 書 表
(令和7年第3回定例会)

乗せするという厳しい経営状態」と報じていました。

私立大学病院においても例外でなく、医療センターと同じ私立医科大学病院において、近年、東海大学医学部附属大磯病院、聖マリアンナ大学東横病院などが閉院しており、大学病院を取り巻く環境も激変しております。

厳しい医療環境の中で医療センターが地域の中核病院として、救命救急及び小児・周産期医療をはじめとする医療体制の継続のため、下記の事項について請願致します。

記

1 医療センターは、年間約8,000人の時間外受診患者数、救急搬送患者数は4,000人を超えております。特に時間外受診の6割は、小児・周産期部門の患者になっております。地域連携を含め救命救急医療、小児・周産期医療等への財政的支援の拡大の検討をお願い致します。

2 医療センターは、地域医療を支える医師や看護師の人材確保が非常に困難になっています。八千代市看護師奨学金制度の見直し及び看護師の人材確保に向けての公的支援の拡大の検討をお願い致します。

3 医療センターは、来年で開設20周年を迎えます。

20数年前に東京女子医科大学と締結した基本協定につきましては、当時と現在とでは社会情勢や医療を取り巻く環境も大きく変化しており、見直しを検討すべき時期にあると考えております。

国の『2040年を見据えた新たな地域医療構想』に即した八千代市医療計画の策定及び医療センターと新たな基本協定の改訂の検討をお願い致します。